

はじめに

この本に興味を持ってくださった方、購入して手に持ってくださいました。ありがとうございます。

この本は、学生時代をオタクとして過ごし、自己啓発・精神世界にも興味津々だった私が、大学院を卒業して、函館で日々を過ごしてどんなことを経験したのか、というようなことを書いた本となっています。

皆さんは、函館という街について、どのような印象をお持ちでしょうか。

夜景の綺麗な街、魚介類が美味しい街、ドラマやCMに登場する街、といったところかなと思います。「街」に対して少し関心のある方が函館を見る時、幾度の大火を経て復興してきた街、歴史的街並みを守ってきた街、市民パワーで色々な賑わいをつくってきた街、といったことをご存じかもしれませんね。

私は、大学では市民参加や地域協働といったテーマを研究し、卒業して函館の建設コンサルタント会社に就職しました。業務以外でNPO活動的なことにも参加・参画させていただき、20年以上経って、だいぶ函館と周辺地域（道南という）の雰囲気にも馴染んできました。

「すずめ君は函館を満喫してるね」

「私の知る限り、函館で一番の貴族です」

などと言われたりもしますが、それはつまり、満喫の仕方が独特なので、あまり真似ができない、したくもないというニュアンスもあって、そこは残念なことです。

私はコンサルタントで、仕事の成果はクライアントのものだから、あまり自分の本業で経験したことを書けません。この本では、なんとかそれ以外のことを話題に書いています。仕事が日々の大半を占める私にとって、仕事以外のこととなるとなかなか話すネタに困ります。読んでくださるとわかんと思いますが、普通世の中に向けて発信しないようなことまで心の引き出しの奥から取り出して書いています。

また、この本は若干の空想性を大事にしたいと思っていて、実は、一つにはあまり具体的すぎると色々問題がありまして、この本に登場する人物などについては、名前を偽名に変更させていただいたり、実際の会話・出来事を忠実に描写できていなかったりしているところがあります。この本に書いてあることはどこまで事実なのか？そこはあまり気にせず、カフェで珈琲飲みながら、バーでお酒を飲みながら、軽い気持ちで読み流していただければ幸いです。

それぞれの節は独立していますので、どこから読んでも大丈夫です。

文章の書き方について悩んだら、本来なら校正に校正を重ねて出てきた答えの文章だけを書くべきものかもしれませんが、こういう風に書こうかなみたいなことまでこの本には書いています。そういったプロセスも参考になればと思っています。